

白河市と未来志向の交流を

◆田沼意次と松平定信「政敵」として対立した二人だが、

大河ドラマの主要人物であり、国づくりを進めた田沼意次侯と松平定信公。二人は対照的な政治家として語られることが多いですが、共通して財政再建を目指したことから「国を立て直す」という想いは同じだったのではないのでしょうか。

旗本から老中に出世した「成り上がり者」



牧之原市史料館蔵

田沼意次(1719～1788年)

旗本の家に生まれる。
父は田沼意行(500石)
5万7,000石(相良藩主)
小姓→御用取次→側用人
→側用人兼老中
・民間資本の活用
・貨幣制度の改革
・外国貿易の黒字化
律儀者で柔軟な思考

従来の価値観にとらわれない経済政策により「田沼時代」を築くが、自然災害などで人々の不満が高まり政争に敗れ失脚する。

将軍を祖父に持つ「サラブレッド」



白河市歴史民俗資料館蔵

松平定信(1759～1829年)

御三卿の田安家に生まれる。
祖父は8代将軍の徳川吉宗
11万石(白河藩主)
田安家→白河松平家
→老中首座兼將軍補佐
・農村の復興
・出版統制や朱子学の重視
・社会秩序の維持
潔癖で厳格、信念を貫く

田沼政治を批判し「寛政の改革」を断行するが、厳しい統制により人々の不満が高まり、老中就任わずか6年で解任される。

出生
親族
石高
経歴
政策
性格
結末

◆「白河市大河ドラマ展」がオープン

大河ドラマ「べらぼう」葛重栄華乃夢斬」を契機に、本市は松平定信公ゆかりの地・福島県白河市と交流を始めた。意次と定信の人物像や白河市の魅力などを紹介します。問い合わせ 大河ドラマ活用推進室 石川 ☎(53)2626

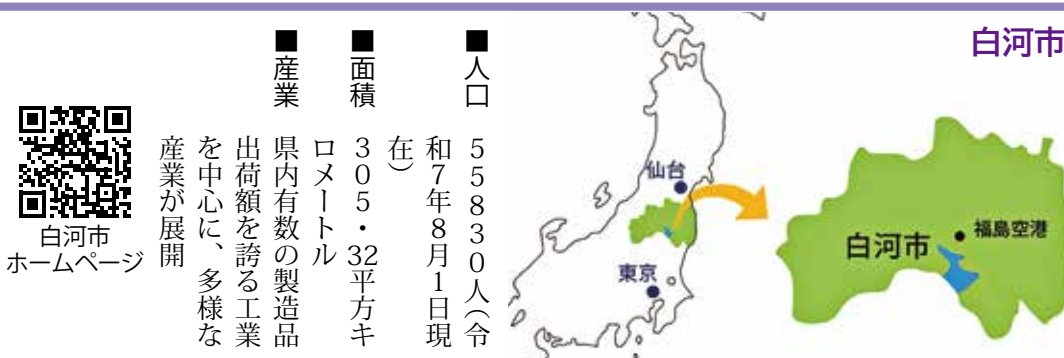


【場所】小峰城歴史館ロビー
(福島県白河市郭内1-73)
【期間】▶前期=9月28日回
▶後期=10月15日回～
12月7日回
※回、日の翌日は休館
【時間】午前9時～午後4時30分
【入場料】無料 ※同館展示室への
入場は有料
【主催】NHK財団
【協力】白河市

◆白河市について

白河市は福島県中通り地域の南部、栃木県との県境にあり、古くから「みちのくの玄関口」として栄えてきた歴史と文化が色濃く残っています。

那須連峰や阿武隈川をはじめ豊かな自然に囲まれ、夏は涼しく、冬は積雪の少ない暮らしやすいまちです。東北自動車道や東北新幹線など交通網が充実しており、首都圏からのアクセスも抜群。本市からは、東北自動車道を利用し、車で約5時間で行くことが可能です。



▶5月10日、11日に、杉本市長⑥が白河市を訪問し、鈴木和夫白河市長⑤と交流を誓いました。

「広報しらかわ」9月号に本市の紹介記事が掲載されています。ぜひご覧ください。

白河グルメ



◀白河そば 定信が冷害に強いそばの栽培を奨励したことが起源と言われています。いろいろな薬味を組み合わせて食べる割子そばスタイルが人気です。

▶白河ラーメン

手打ちのちぢれ麺と豚骨と鶏ガラからだしを取った、醤油ベースのあっさりしたスープが特徴の、白河市のソウルフードです。



◀南湖だんご 南湖築造の際、定信が職人たちに振る舞ったことが起源だと伝わる名物です。一口大のだんごをつまようじでいただくスタイルが定番。

観光スポット



◀南湖公園 定信によって築造された南湖は、塀も柵もなく、いつでも誰でも風景を楽しめる「土民共楽」の理念を叶えたもので、人々の憩いの地として親しまれています。湖水は灌漑用水として利用され、築造工事は困窮者の救済事業を兼ねていました。

▶南湖神社

定信をまつる神社で、定信が学問・文化芸術に秀でていたこと、男女の縁を多く取り持っていたことから「学業成就・縁結びの神」としても有名です。春には、定信が植えたといわれる樹齢200年以上の御神木「榮翁桜」が見事に咲き誇ります。



◀小峰城 平成22年に国指定史跡となった小峰城は、奥州関門の名城とうたわれた梯郭式の平山城です。現在の三重櫓と前御門は、定信時代に作られた絵図と発掘調査に基づき、約120年の時を経て木造で復元され、市のシンボルとして親しまれています。

◀小峰城 平成22年に国指定史跡となった小峰城は、奥州関門の名城とうたわれた梯郭式の平山城です。現在の三重櫓と前御門は、定信時代に作られた絵図と発掘調査に基づき、約120年の時を経て木造で復元され、市のシンボルとして親しまれています。

◆定信公ゆかりの地をめぐる